

研究者が研究に没頭できる 世界をつくるreprua

株式会社 Inner Resource 松本剛弥

提案の背景

研究者が研究に没頭できる世界をつくる。これが僕の悲願です。
僕が26歳の時、家族が難病指定を受けました。当時の病院の判定が、原因・解決策不明というもので、驚き、立ちすくみました。苦しんだ先に、“わからない”を解決したいと思った。今から僕が研究者になることは現実的ではない。だったら徹底的に研究者の支援をしたいと思いました。試薬の商社に身を投じ、研究者が研究以外の雑務をアナログな形で相当量行っている現実に驚き、課題を感じました。僕は、研究者のため、研究以外の雑務を徹底的に効率化するこの事業を始めました。

トライアル概要

Repruaをつくば市に所在する
研究施設にご導入頂く



reprua
購買支援システム reprua
(研究室向けのAmazon)

購買事務をデジタル化

アナログ管理 → デジタル管理



*某大学における
購買管理ノート



*repruaの画面
キャプチャ

前後で雑務にかかる時間を測定



期待される効果・実現する未来社会

活動内容	時間比率 (2018年)	2002年からの 増減分	今後の政府・大学の 方針(想定)
研究	32.9%	▲13.6%	↑ 研究の時間を 増かつ生産性向上
教育	28.5%	+4.8%	→ 維持しつつも、効率 up
社会サービス (研究関連)	5.0%	+1.6%	→ 維持ないしは向上
社会サービス (教育関連)	5.3%	+2.5%	→ 維持しつつも効率 up
社会サービス (そのほか)	10.3%	+6.7%	→ 効率化
そのほかの職務 (学内事務など)	18.0%	▲1.9%	↓ 徹底的な効率化

- そのほかの職務にかかる時間(18%)を徹底的に効率化し、研究にかけられる時間を増する
- 結果として、研究者の人件費(7.2兆円)がより研究に使われる世界をつくる